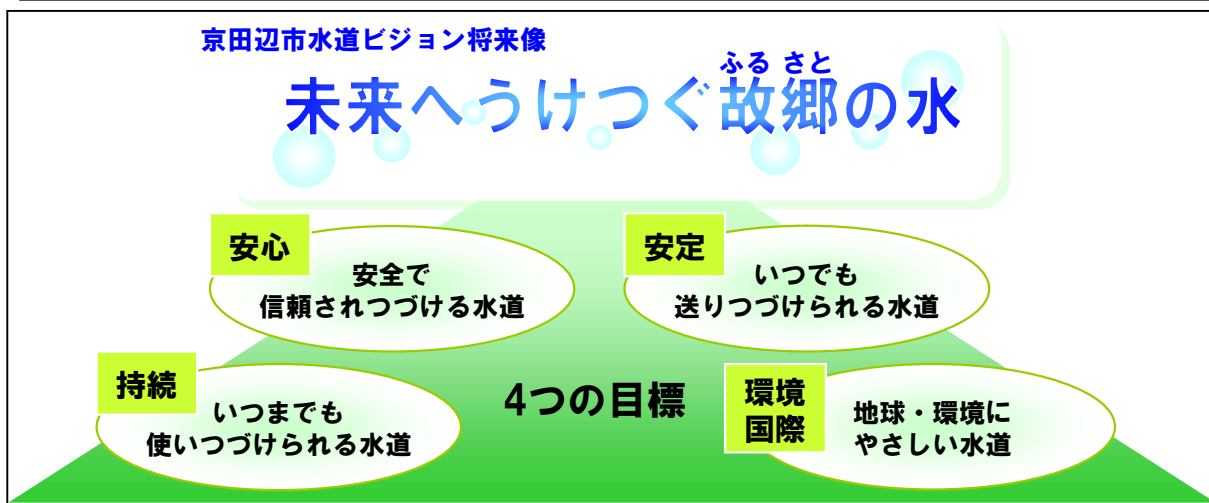


京田辺市水道ビジョンに基づく指標の公表（業務指標等）

【平成25～27年度】

業務指標とは、水道サービスを定量的に評価する指標として、平成17年に「水道事業ガイドライン」（日本水道協会）で定められた137個の指標です。平成25年2月に策定した、京田辺市水道ビジョンでは、この業務指標から19項目を取り上げ、独自で定めた2項目を合わせて、21項目を公表しています。

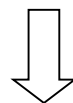
今後の水道ビジョンの進捗状況を定量的に毎年継続してお知らせすることを目的として、別紙の通り、公表します。



指標の良否：



高い方がいい



低い方がいい

京田辺市水道ビジョンに基づく目標達成度把握のための指標一覧表（業務指標等）

別紙

目標	指標番号	指標名	単位	指標の良否	計算式	平成25年度	平成26年度	平成27年度	目標39年度	コメント
安心	1104	水質基準不適合率	%	↓	水質基準不適合回数/ 全検査回数×100	0	0	0	0	定期の水質基準では水質基準不適合回数は0回でした。
	1102	水質検査箇所密度	箇所/100km ²	↑	水質検査採水箇所数/ 給水区域面積×100	95.9	95.9	95.9	95.9以上	配水系統毎に14箇所毎日検査を行っています。この値は、水質の安全確保に適切な値と考えています。
安定	1002	水源余裕率	%	↑↓	[(確保している水源水量/ 一日最大配水量)-1]×100	22.9	20.8	17.2	14.1	井戸の取水量が低下したことにより、水源余裕率は減少しました。今後も定期的に井戸の改修や掘替等を実施し、適正な揚水量の確保に努めます。
	3020	施設最大稼働率	%	↑↓	一日最大給水量/ 一日給水能力×100	81.4	82.8	85.3	87.7	井戸の取水量が低下したことにより、施設最大稼働率は増加しました。今後も定期的に井戸の改修や掘替等を実施し、適正な揚水量の確保に努めます。
	2006	普及率	%	↑	給水人口/給水区域内人口 ×100	99.5	99.5	99.5	99.9	給水人口及び給水区域内人口は、増加傾向にあり、普及率は、高い水準にあります。
	2207	浄水施設耐震率	%	↑	耐震対策の施されている 浄水施設能力/全浄水施設 能力×100	0	0	60.1	100	基幹施設である薪浄水場の耐震補強工事が完了したことにより、耐震化率が向上しました。今後も引き続き、耐震化に努めます。

京田辺市水道ビジョンに基づく目標達成度把握のための指標一覧表（業務指標等）

別紙

目標	指標番号	指標名	単位	指標の良否	計算式	平成25年度	平成26年度	平成27年度	目標39年度	コメント
安定	2208	ポンプ所耐震施設率	%	↑	耐震対策の施されているポンプ所能力/ 全ポンプ所能力×100	23.8	23.8	23.8	100	今後、計画的にポンプ所の耐震化工事に着手します。
	2209	配水池耐震施設率	%	↑	耐震対策の施されている配水池容量/配水池総容量×100	26.0	26.0	53.4	100	詳細耐震診断を実施した結果、田辺低区配水池が耐震性を有していることを確認しました。今後も引き続き耐震化に努めます。
	2210	管路の耐震化率※	%	↑	耐震管延長/ 管路総延長×100	10.6	11.8	12.7	25.0	耐震管延長・管路総延長ともに増加しています。老朽管の更新工事や新設工事において、耐震管を採用することにより耐震化率の向上を図ります。
	—	基幹管路の耐震化率※	%	↑	基幹管路の耐震管延長/基幹管路総延長×100	22.6	24.2	24.2	78.0	平成28年度に管路の耐震性適合調査及び基幹管路耐震化計画を策定し、管路更新の優先順位を付けることにより、耐震化を進めます。
	—	緊急遮断弁設置済み配水池数	箇所	↑	緊急遮断弁設置済み配水池数	3	3	3	3	平成25年度に市北部の給水拠点として、松井ヶ丘配水池に緊急遮断弁を設置しました。
	2215	車載用の給水タンク保有度	m ³ /千人	↑	車載用給水タンクの総容積/ 給水人口×1000	0.418	0.413	0.412	0.398	給水人口が増加していることから、数値が下がりました。

京田辺市水道ビジョンに基づく目標達成度把握のための指標一覧表（業務指標等）

別紙

目標	指標番号	指標名	単位	指標の良否	計算式	平成25年度	平成26年度	平成27年度	目標39年度	コメント
持続	2202	幹線管路の事故割合	件/100km	↓	幹線管路の事故件数/幹線管路延長×100	0	0	0	0	幹線管路の事故割合は、0件です。
	3002	経常収支比率	%	↑	(営業収益+営業外収益)/(営業費用+営業外費用)×100	100.5	100.7	100.2	100.0以上	限られた財源を有効に活用するため、経費の節減や効率化を徹底し、経営の安定化・健全化を図ってきました。
	3013	料金回収率	%	↑	供給単価/給水原価×100	80.2	81.1	86.2	100.0以上	引き続き、給水収益の推移について調査を続け、料金改定の適切な時期等について協議・検討を行います。
	5006	料金未納率	%	↓	年度末未納料金総額/総料金収入額×100	1.9	1.6	1.7	1.7	平成27年度は、大型漏水の発生に伴い、未納料金総額が増加したことにより、昨年度と比較して料金未納率が悪化しました。今後も継続して口座振替への切り替えを進めるとともに、負担の公平性を確保するため、滞納整理等未納料金の回収に努めます。
	3101	職員資格取得度	件/人	↑	職員が取得している法定資格数/全職員数	1.48	1.39	1.55	0.60	日本水道協会や京都府営水道等が主催する各種勉強会、研修会に参加し、次世代への技術継承を図ります。
	3103	外部研修時間	時間	↑	職員が外部研修を受けた時間・人数/全職員数	5.4	6.7	6.0	2.5	職員は、企業を支える3本柱（人材、資産、資金）の一つであることから、今後も人材育成を重視し、各分担事務に応じた計画的な研修を実施します。

京田辺市水道ビジョンに基づく目標達成度把握のための指標一覧表（業務指標等）

別紙

目標	指標番号	指標名	単位	指標の良否	計算式	平成25年度	平成26年度	平成27年度	目標39年度	コメント
持続	3105	技術職員率	%	↑	技術職員総数/全職員数×100	51.7	50.0	54.8	62.1	技術職再任用を2人としました。老朽施設や管路の更新・耐震化が増える中で、土木系職員や専門技術者の確保に努めています。
環境・国際	4001	配水量1m ³ 当たりの電力消費量	kWh/m ³	↓	総電力量/年間配水量	0.84	0.81	0.79	0.81	KES環境マネジメント活動により省エネルギー化に努めます。不必要な照明の消灯等により一層の電力使用量の削減を図ります。
	4005	建設副産物のリサイクル率	%	↑	リサイクルされた建設副産物/建設副産物排出量×100	91.9	90.0	86.4	90.0	建設副産物は引き続き、再資源化施設への搬入を優先します。

※耐震管とは、「平成18年度 管路の耐震化に関する検討会報告書」(厚生労働省)をもとに、耐震型継手を有するダクタイル鋳鉄管(S形、SⅡ形、NS形、US形、UF形、KF形、PⅡ形等)、鋼管(溶接継手)及びポリエチレン管(熱融着継手)に加えて、硬質塩化ビニル管(RRロング継手)や岩盤、洪積層等の良い地盤に布設されたK形継手のダクタイル鋳鉄管も対象とします。